熊本大学広報誌

熊大通信

vol. 48 2013 SPRING

特集Ⅰ

講義室から現場へ―法学部伊藤研究室が取り組む

公共政策教育の新しいカタチ

国立大学法人
熊本大学
Kumamoto University

CAMPUS SCENES

キャンパスの風景

黒髪北キャンパス側のヤシの木

県道337号沿いに並ぶヤシの木は、
長く熊大の歴史を見守ってきたが、
強風による倒木・枝葉の落下などによる
被害を防ぐために撤去されることが決まった。
長い間、お疲れさまでした。

熊大通信 vol. 48

2013 SPRING

熊本大学広報誌 熊大通信

＊皆さまのご意見・ご感想をお寄せください。

【発　　行】国立大学法人熊本大学
〒860-8555 熊本市中央区黒髪 2-39-1
Tel.096-342-3119
Fax.096-342-3007
sos-koho@jimu.kumamoto-u.ac.jp

【編　　集】熊大通信編集委員会
田中 智之／委員長・大学院自然科学研究科
大辻 正晴／文学部
黨　武彦／教育学部
朝田 康禎／法学部
中田 晴彦／大学院自然科学研究科
永田 千鶴／大学院生命科学研究部
首藤　剛／大学院生命科学研究部
田中 尚人／政策創造研究教育センター
西村 兆司／マーケティング推進部広報戦略ユニット

【制　　作】株式会社カラーズプランニング

CONTENTS

０３　Student × President インタビュー
不可能を可能に変える
“誇れる人”であれ。

０５　特集Ⅰ　**講義室から現場へ―法学部伊藤研究室が取り組む**
公共政策教育の 新しいカタチ

１１　研究室探訪　**画像処理と最適化技術を駆使し、**
交通課題を解決！
工学部情報電気電子工学科　内村圭一研究室

１３　特集Ⅱ　**“熊大の魅力”を伝える**
熊大歌留多読み札

１５　国際交流　インタビュー
熊本大学から世界へ　末田亮介さん
世界から熊本大学へ　クリナエワ・アンナさん

１７　卒業生ジャーナル

１９　KUMADAI TOPICS

２２　熊本大学基金よりお知らせ

表紙／五大学合同ゼミや海外研修などに取り組む法学部・伊藤研究室のさまざまな活動

Student × President
Interview

不可能を可能に変える〝誇れる人〟であれ。

熊本大学理学部4年
平野 隆之さん
Takayuki Hirano

熊本大学長
谷口 功
Isao Taniguchi

谷口学長が就任して、5年目を迎えました。教育・研究・地域貢献など、大学へ求められる使命がある中で、これからの熊大生はどうあるべきか？「第2回熊本城マラソン」で準優勝を果たした平野さんを交え、武夫原で学長に話を聞きました。

新たな価値を創造し時代を切り拓く〝人財〟を

平成25年度は、熊本大学が大きく変わる節目の年になるのではないかと考えています。日本再生に向けてこれまで行ってきたさまざまな取り組みの見直しや、厳しい財政の中で山積したやるべきことに向き合い、変革に向けた一歩を踏み出す年と位置付けています。それには、新しい時代を切り拓く〝人財〟を生み出していかなければなりません。

100年前であれば、誰かの真似をすればよい時代でした。すでに創造されたものから学ぶ時代を経て、現代は新しい価値を自ら創造する時代になっています。さらに、日本は今までになかったものを生み出していく役割を担い、先頭に立って世界をけん引していく立場にあります。そのためにはそれができる人、社会を担う人を育てることが、大学に強く求められています。

先の「くまもと都市戦略会議」では、「学都・くまもと」を都市戦略に掲げ、全国やアジアに向けてPRしていくことが決まりました。大学だけでなく、「社会全体で未来を担う〝人財〟を育てていく」という意識を地域が共有していることを再確認できた意義深い決定です。熊本全体で新たな動きがスタートしたことは、大きな一歩です。

不可能を可能にする諦めない力こそ〝熊大力〟

歴史と伝統、そして「人」が、本学の〝誇り〟です。旧制第五高等学校時代からそうであったように、「人」を大事に、大きく育てるという伝統は、本学に今も脈々と受け継がれています。教育・研究・地域貢献を通して、大切なことは、「人」が中心であることなんです。

東京スカイツリーの建造に本学の卒業生が携わっていました。あの狭い場所にあれだけの高さのタワーを建てることは、一般に不可能だと言われていましたが、その不可能を実現する大きな力となって活躍してくれたことをうれしく思います。本学では、「できないことを実現する」そういった「人」を育ててきたと自負しています。無理なこと、不可能な壁にぶつかったときに、諦めるのではなく、「では、どうやって実現できるか」と真摯に向かっていく力を、学生の皆さんには身に付けてほしいですね。

一人一人が熊大の〝誇り〟世界へとつながる舞台で活躍を

先に開催した「熊大歌留多読み札」に集まった歌には、多くの本学の魅力と〝誇り〟が詠まれていました。（詳細は13ページ参照）。最優秀賞の作品は、学生一人一人が、〝熊大の誇り〟だと呼び掛けていますが、まさにその通り。あなたが〝誇り〟であり、〝宝〟なんです。

「人」が、新しい時代を造り、時代を育てる。学生の皆さんには、コツコツと努力して、地味だけれど力がある。そして自らのエネルギーをつぎ込んで、不可能を可能に変えていく、そんな〝誇れる人〟になってほしいと願っています。

マラソンも同じですね。自分自身の今の持てる力から始めて、少しずつ目標をクリアしていく。いきなりフルマラソンを走れるわけじゃない。毎日の練習の積み重ねで走れるようになり、距離とタイムを伸ばしていくことが大切。その先に目標とするレースがあり、そこで日頃の成果を出すことができたら素晴らしいですね。平野さんも〝誇れる人〟の一人なんです。

皆さんが活躍するのは日本だけじゃなく世界につながる舞台です。本学も地域から世界へとつなぐ役割を果たしていきたいですね。

第2回熊本城マラソンで準優勝 平野 隆之さんが学長へ報告

第2回熊本城マラソン開催後、準優勝を果たした平野さんが学長室を訪れ、大会の成果を報告しました。谷口学長は「おめでとう！」と、固い握手で労をねぎらいました。

マラソンは今やスポーツの花形。道具も使わず、その人そのものの力で勝負する。それが感動を呼ぶと語る谷口学長。「これから社会を担っていく人は、いろんな意味で人間的な魅力が必要。文武両道が大切なんですよ。勉強プラスアルファの総和で人は成長するものだから、学生の皆さんには精いっぱい挑戦してほしいですね」。

平野さんは、アキレス腱のケガに泣いた中学・高校時代を経て、大学生活を送るうちにそのケガを乗り越えたといいます。「熊大の陸上部は、自由に練習を組み立てることができ、自分のペースで進めることができました。のびのびと走ることで故障が減り、成績を伸ばすことにつながったんです」。

「来年はぜひ優勝を」という谷口学長の期待を胸に、平野さんは次の大会を目指してトレーニングを続けています。

箱根駅伝を走る大学生も参加すると聞いて、より一層練習に力が入ったという平野さん。前年5位だったタイムを5分も縮めて準優勝を果たした（詳細は19ページ参照）。

2012年10月ボストン市議会でのプレゼン風景

2012年11月九州五大学合同ゼミでの全体発表

講義室から現場へ―法学部伊藤研究室が取り組む

公共政策教育の新しいカタチ

学生が主体的に学ぶにはどうしたらよいか。それにはまず社会の中に立つこと。
いま社会はどのような課題に直面しているのか。これを実感しないで社会科学の勉強なんてありえない。
現場に出向いて議論しよう。それも大学の枠を超えて他大学と、そして企業とも、さらには海外の大学や研究機関とも。
広がる世界と向き合う中から新しい「学び」が生まれる。
知識伝授型の教育から知識創造型の教育へ―「九州五大学合同ゼミ」や海外研修の実施など、
公共政策の新しい教育方法を模索している法学部の研究室を訪ねました。

コーディネーター　熊大通信編集委員　朝田 康禎

2013年1月に行われた学部生向けの海外研修の報告会

2012夏合宿で、「由布院玉の湯」の溝口薫平さんを囲んで地域の課題について学ぶ

大学から飛び出す実践的教育へ

海外研修や国内調査の概要はニュースレターとして情報発信している。右の本は2010年度九州五大学合同ゼミの成果を出版したもの

公共政策とは何か

現代社会は水道や電気・ガス、医療、介護、教育、育児、といった多くの側面で、多様なシステムによって支えられています。個々人の生活を個人の力だけでは維持することはできません。東日本大震災の例を考えれば分かります。

こういったシステムや制度を作り出し、または維持するのは、主に国家や自治体の仕事です。どのようなシステムを、誰がどの程度の負担で作り維持するのかといったことを決めるのが公共政策です。

個人が生き生きとした生活を送るためにはどのようなシステムが望ましいのか、また誰がそのコストを負担するのか、あるいはまたどのように決めるのがいいのか。公共政策を学ぶというのは、こういった問題について考えるということです。

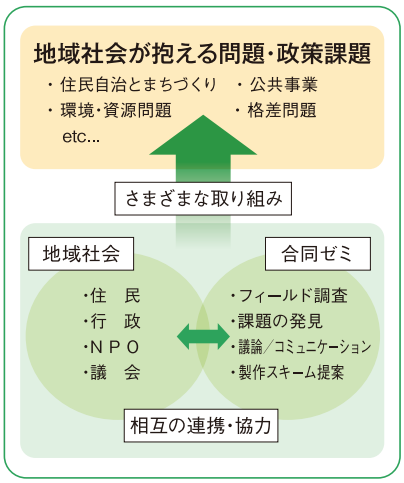
近年日本では、市民のさまざまなニーズに対応した政策が求められていますが、とくに注目されるのは市民が自ら参加し、政策形成に参加しようという機運が高まっていることです。

熊本大学での取り組み

公共政策について考える際には、法学、政治学、経済学などの分野が関わってきます。今日までの法学・政治学教育は講義中心・文献中心の教育であり、法や政治が実際に適用・展開される現実社会そのものと切り結ぶ教育ではありませんでした。そこで、法学部・伊藤洋典教授の研究室では、具体的な政策課題を学ぶために現地へ赴き、フィールドワークを中心とした調査研究を通して、現場感覚に触れ合う教育を展開しています。

中でも九州の五つの大学（熊本大学、九州大学、鹿児島大学、佐賀大学、西南学院大学）が集まって、合宿を行いながら合同でゼミを行う九州五大学合同ゼミや、同じような課題を抱える海外の地域へ出かけたりする実践教育は学生にも好評です。現場に触れることで具体的課題への理解を深め、同時に文献学習を通じて学術的な理解も深めていきます。

九州五大学ゼミや海外研修など、行政や企業を巻き込んだ連携授業による新しい教育のカタチ―。こうした実践教育によって、コミュニケーションやプレゼンテーション、さらにはマネジメントの能力が向上していきます。



【教育GPの構成図】

【九州五大学合同ゼミの歩み】

年度	開催地	テーマ
2001年	熊本県球磨郡五木村	川辺川ダム問題
2001年	長崎県諫早市	諫早湾干拓の是非
2003年	熊本県葦北郡芦北町	中山間地域の抱える課題
2004年	鹿児島県川辺郡川辺町	住民主導の環境型社会の構築
2005年	西南学院大学キャンパス	憲法9条改正と国民投票
2006年	佐賀大学キャンパス	市町村合併
2007年	大分県由布市	住民自治とまちづくり
2008年	鹿児島県霧島市	平成の大合併
2009年	福岡県飯塚市	飯塚を知る
2010年	熊本県球磨郡五木村	川辺川ダム問題
2011年	佐賀大学キャンパス	原子力発電所問題
2012年	鹿児島県鹿屋市	農業問題と地域づくり

【海外研修の歩み】

年度	国	主な訪問先
2011年	アメリカ・フランス	サクラメント電力公社、サクラメント市議会、サクラメント州立大学、連邦議会図書館、日立製作所ワシントン事務所、ボルドー第3大学 ほか
2012年	アメリカ・ベルギー	ボストン市議会、ブルッキングス研究所、北米ホンダ、マンスフィールド財団、ジョージタウン大学、マサチューセッツ州議会、日立欧州ブラッセル事務所、欧州委員会、欧州大学院大学、ルーヴァンカトリック大学 ほか

※教育GP…文部科学省「質の高い大学教育推進プログラム」（GP＝Good Practice）。伊藤教授が取り組む「学生主導型ゼミによる“地域活性化人材”の育成」が採択された

大学が動けば、企業も動く！

共に取り組む公共政策

熊本大学法学部教授　伊藤 洋典

「新しい教育方法の追求は、現場から」と挑戦を続ける伊藤教授に話を伺いました。

学内で行ったプレゼン大会に日立製作所・田宮直彦さん（上、手前）、熊本市議会・下川 寛さん（上、二人目）を招き、プレゼンに対するアドバイスをいただいた

Profile／熊本大学法学部教授。政治思想専攻。九州大学大学院法学研究科博士課程単位取得退学。法学博士。20世紀の政治思想について、ハンナ・アレントの思想を中心に研究を行っている。また現代の国民国家をめぐるさまざまな問題や地域社会の問題など、公共政策の観点から研究を行う。

川辺川ダム問題をテーマに

九州五大学合同ゼミの原点は川辺川ダム問題でした。2001年から続いている合同ゼミでは、テーマ決めから具体的な合宿段取りや議論のマネジメントまで、全て学生が主体的に行う活動をしています。

最初は偶然から始まった合同ゼミですが、川辺川ダム問題をテーマにした合宿で、私たちが何も言わず何も手助けせずといった姿勢でいたら、学生たちが自分たちで動き出して議論を始め、夜中まで討論し始めました。これには私も新鮮な驚きで、日本の学生は自分の意見を言わないというのは単なる偏見なのだと思ったんです。現場で学ぶということの意義を感じた瞬間でした。

社会で何が問題となっているのか、どうすればよいのか、こうしたことを具体的な課題の中で学ぶのがこの合同ゼミの目的です。これは、知識というのは与えられるのではなく、自ら作り出すものであるということを学ぶことにつながります。同時に100人規模の学生の活動をマネジメントして議論を動かすわけですから、そこには大きな苦労があります。でもこれは彼らが社会人になったときに、彼らを支える力になると信じています。

企業の協力を得て、海外へ

長年この合同ゼミを続けていくうちに、学生の活動を海外にも広げてみたいと思うようになりました。日本の問題をより深く理解するためにも海外の事例を突き合わせたり、海外の人と議論したりすることが意義深いのではないかと考えるようになったのです。そこで、以前から大学院生がお世話になっていたカリフォルニア州立大学に学生を連れて行き、日本の問題をアメリカ人の研究者たちの前で発表させました。このときに、同時にアメリカで活動している日本企業に協力していただいて、日本企業とアメリカ社会の関係についても見聞を広めようと考えたのです。社会は大学に何を求めているのか、学生時代に身に付けておくべき能力は何なのかといったことを実地に学ぶいい機会だと思いました。

幸い、日立製作所が協力をしてくれて、まずは一歩を踏み出すことができました。それから日立の大出さん（ワシントン事務所所長）の声かけで、ホンダ技研工業の園田さん（当時北米ホンダ副社長）が協力してくれることになり、さらに園田さんのつてで、ワシントンDCの研究機関などとも交流が生まれました。こうやっていろんな協力を得て、ようやく社会の中で学ぶという形ができつつあるような気がしています。

研究は次のステップへ

行政と市民のギャップを埋める公共政策の新しい実践を海外で学ぶ

大学院社会文化科学研究科公共社会政策専攻博士後期課程（※当時）石田 聖さん

公共政策に行政との協働や市民参加が求められる中で、五大学合同ゼミなどを通して浮かび上がってきたのが市民と行政のギャップ。それをどうしたら埋められるかと考えた時に、海外の政策を学ぼうと、アメリカに2年間留学しました。

アメリカでは地域と大学、行政と市民をつなぐコーディネーターを育成するための研究・教育が我が国よりも体系化されていると感じました。東日本大震災直後には、留学先の大学で、これまでの講義やカリキュラムを見直し、リスクマネジメントの視点を盛り込もうという議論が行われるなど、専門家と非専門家のコミュニケーションの改善を図るために実践的なプログラムづくりも行われていました。日本では、震災を通して情報の透明性や意思決定のあり方に対する問題が浮き彫りになりました。こうした課題を克服していくためにも、日本で行政と市民の合意形成や協働をどう体系化していくかが、私のこれからの研究テーマですね。

現場へ！

社会への“挑戦”を振り返る

地域の課題の理解には自分たちが現地に出向いて話を聞き、自分たちで考えるしかない。そのことに気付いた学生たちが現地で得たもの、卒業後に再認識したものを語ります。

「“血の通った考え方”を学ぶ」

OB 緒方　隆介さん
（中部電力株式会社 勤務）

五木村のフィールドワークでは、県や村と住民、それぞれの意見を聞いていくうちに、親戚関係さえ壊してしまう真の川辺川ダム問題が浮かび上がってきました。

五つの大学でディスカッションを繰り返し、情報共有や意識の統一を図りマネジメントしたことは、今も大きな自信につながっています。

現地を訪れて初めて自分の事の様に考え、直接語らう〝血の通った考え方〟がどれほど大切かを学んだゼミでした。

「学生たちが作り上げる地域の形」

OG 吉原　純子さん
（株式会社IHI 勤務）

九州五大学合同ゼミを通して一番学んだことは、「百聞は一見にしかず」ということ。実際の課題が何なのかを自分たちで探し、その解決策を探していくことが、基本なのだと改めて思います。川辺川ダム問題を通して「学生たちが作り上げる地域の形」があることの意義を知った合同ゼミでしたね。

伊藤研究室には他のゼミでは味わえないワクワクがあります。自分で考えて行動できる力を学生時代に得たことが今、大きな力になっていますね。

「自分の目と足で学んだ知識が財産」

法学部4年※当時 原　菜波さん

伊藤ゼミでは班ごとにフィールドワークを行うのですが、自分が外から見ているイメージとその地域が実際に直面している問題は異なることが多々あり、毎回驚かされます。たとえば、今回のアメリカ研修に先立って宮城県石巻市で現地調査を行いましたが、仮設住宅での生活やコミュニティカフェの存在といったテレビなどでは報道されないことをたくさん学ぶことができました。ここで学んだことはアメリカでのプレゼンに大いに役に立ちました。

ゼミ活動や海外研修を通して、私はプレゼンする場を何度も与えてもらいました。プレゼンをするにあたっては、相手にどのように伝えるかということを第一に考えるようにしています。当たり前のことかもしれませんが、自分のプレゼンを客観的に見てみると何を言いたいのかさっぱりわからなかったということは意外と多いものです。海外でのプレゼンは言葉の通じない中で行う不安も大きいですが、フィールドワークを重ねて得た知識が自信につながり、今までほとんど失敗していません。

実際に外に出てみないとわからないことがたくさんあるということ自体を学ぶことができただけでも九州5大学合同ゼミや海外研修に参加した意味があったと思っています。

「海外経験でプレゼンの大切さを実感」

法学部4年※当時 松尾　笑（えみ）さん

アメリカを訪れてみて、アメリカの方々が日本に対して、特に東日本大震災や福島の原発事故に対してこんなに関心があるのかと驚きました。ジョージタウン大学では学生向けに東日本大震災に関するプレゼンを行いましたが、学生の皆さんからたくさんの質問を受け、学生たちの関心の高さを知りました。マンスフィールド財団では私たちのプレゼンを理解してくださったうえで「〝震災復興をもっとスムーズに行うために日本の法律を3つ変えるとしたら何か〟ということをプレゼンに盛り込むとさらによいプレゼンになる」とアドバイスをいただきました。そういう考え方で法律を学んでいけば理解も深まるのだと感じました。

アメリカの皆さんのプレゼンを見て学んだことがたくさんありました。特に北米ホンダのロビイストの方のプレゼンが印象に残っています。聞き手の興味をひきつける工夫がなされており、英語を十分に理解できなくても心をつかまれました。

海外でディスカッションを経験してその中から得たものはとても大きいと思います。後輩のみなさんも怖がらずに、ぜひ学生のうちにいろんな機会を利用して海外に行ってほしいです。

conversation:

学生たちの自己変革に向けて

伊藤研究室の海外研修を受け入れ、全面的にサポートする企業の思いとは?
北米ホンダ副社長在任中に、自ら本学への協力を働き掛け、
平成25年度より法学部客員教授に就任した園田隆則さんを迎え、
伊藤教授がその思いを聞きました。

モーリーン&マイク・マンスフィールド財団
シニア・フェロー
法学部客員教授
園田 隆則 氏

「文化や社会の違いを日本の学生に感じてもらいたい」

Profile／筑波大学大学院地域研究科修了（国際関係論修士）。本田技研入社、本社北米部勤務等を経て、ワシントン事務所勤務。北米ホンダ副社長（ガバメントリレーション担当）。その間ジョージタウン大学ロースクール卒業。元ワシントン日米協会理事、2012年より現職。

日米の交流の減少にみる危機感

伊藤　九州五大学合同ゼミを行っていく中で、現場で学ぶということの意義が明確になりました。同時に学生たちにはもっと視野を広げてもらいたいと思い、国外へ目を向けました。私は知識伝授型の従来の教育方法に少々疑問を感じてまして、学生が自ら何かを掴むことが重要で、そのための環境やチャンスを提供することが教育のあり方だと思っています。ティーチではなくてヘルプラーニングですね。

ただ、大学だけでできることは限られていますので、企業の方や公務員の方々にいつも声を掛けさせていただいて、協力を仰いでいるわけです。日立製作所の大出さん、田宮さん（本社人事教育部長）、園田さんからは大変なご助力を頂いています。園田さんからご覧になられてこういう海外研修の試みというのはどうお感じになりますか。

園田　日本から来る学生や研究者の数がこの10年でかなり減っています。1970～80年代は日本とアメリカの人の交流の幅が広かった。しかし現在では、日本側にはアメリカを理解できる次の指導者がいないという危機感と、アメリカでも日本を理解する世代が次第に減っているという事実があるんですよ。

このままでは、アメリカを中心としたグローバル化の中で親密な人間関係の中に日本人がいなくなる可能性がある。その危機意識が強く、日本側でアメリカやアジアを理解する人を早く育てていかなければなら

海外研修をサポートする企業からのメッセージ

国境を越えて刺激し合うグローバル人材の育成

株式会社日立製作所理事
ワシントン事務所長兼ロサンゼルス事務所長　**大出 隆**

2011年11月に訪米ミッションで当地に来られた熊大の学生チームに、企業のワシントンでの活動について話す機会をいただきました。このミッションを企画された伊藤教授が、「学生たちにグローバルに眼を向けさせたい」と語られた事が印象に残っています。昨今のグローバル化の進展により、企業でも〝グローバル人材〟育成は喫緊の課題です。グローバル化により、地球温暖化やエネルギー問題なども国境を越えた対応が不可欠となり、否が応でも、皆さんは今後グローバルの波に直面します。米国はグローバル化の旗手であり、その意味で訪米ミッションは、国際協力や国際文化交流に携わりたいと考える学生のみならず、米国の政治・経済・文化等に関心を持つ学生にとっても、大きな刺激になったのではないかと思います。

初めての海外研修で日立製作所を訪れた学生たちに、さまざまなアドバイスをする大出さん

Profile／1975年日立製作所入社、ブラッセル事務所主任、国際事業本部北米部長、国際事業本部部門本部長等を経て2003年より現職。2010年3月に連邦議会図書館アジア部門友好協会会長に就任。

ないと感じていました。ちょうどその時に熊大の話を聞いて、短期でもいいから意見交換する経験をしてもらい、グローバルな問題意識を高めてもらいたいと思ったんです。

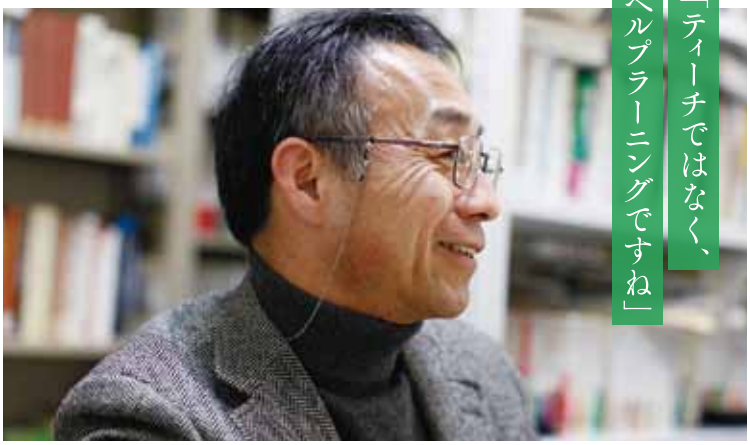
具体的課題から考える

伊藤　園田さんは、現地でロビー活動などにも携わっておられるので、学生にとって法律の観点からも勉強になります。

園田　日本の場合は法律を変えることが困難だけど、法律を変えるのが我々ロビイストの仕事。アメリカは法律を作ることと企業の壁がないんですよ。例えば、個人には主張する権利があると同時に責任があるように、企業には、営利活動の他に社会的責任を果たす役割があるんです。こういった文化や社会の違いを日本の学生に感じてもらいたいという背景も協力を申し出た大きな理由の一つですね。

　日本の授業は大講義室で教授が教壇から話をするけれど、アメリカでは現実的な課題について学生と議論したり、法律をどう変えたら課題が解決できるかというようなディスカッションが行われます。伊藤先生が実践なさっている教育に重なりますね。

伊藤　そうですね。私もかねがね一方通行的な講義よりも具体的な課題にどう取り組めばよいのかという観点をもった授業のあり方を模索していましたので、園田さんのような方のお話は学生には大変いい刺激になったと思います。



「ティーチではなく、ヘルプラーニングですね」

熊本大学法学部
伊藤 洋典 教授

学生たちの学ぶ意欲を大きく

伊藤　2012年には、「マンスフィールド財団タスクフォース」に来学いただき、今後の日米二国間のビジョンについて討論会を行っていただきました。

園田　はい、日本の6地方都市（札幌、仙台、名古屋、京都、大阪、熊本）を巡るプロジェクトで、トーマス・シーファー前米国駐日大使をはじめとするマンスフィールド財団タスクフォースのメンバーが来日しました。

　ちょうど2012年は、日本からワシントンに桜を送って100年という記念の年にあたります。それを機会にこれからの日米関係について考え、二国間の深いつながりを生み出そうということを目的に行われたプロジェクトで、全国でディスカッションを行ったんです。

　そのほかにも、日米の若手の協力を推進し、日本語教育をアメリカで支援することなどの取り組みが進められています。日本各地の会場で、皆さんと活発な意見交換をすることができて、本当によかったと思っています。

伊藤　海外研修でも単なる親善的な交流だけではなく、日本で調査したことを英語でプレゼンしながら議論するという経験が大事だろうと思います。自分たちの調査は十分だったのか、プレゼンは理解されたのか、こういった反省が学生たちの学ぶ意欲を大きくすると思います。どうもありがとうございました。

2012年12月モーリーン＆マイク・マンスフィールド財団によるシンポジウムが、熊本大学工学部百周年記念館で開催された

コーディネーターからのメッセージ

学生と教員が共に試行錯誤することで生み出されるもの

コーディネーター　熊大通信編集委員　朝田康禎

　大学教員であるならば、学生が社会で活躍するためには、どのような能力が求められているのか、どのような教育方法が必要なのかということを考えずにはいられません。

　大学の教育目標には必ず「自ら社会の課題を発見し、解決方法を考える」と書かれていますが、学生がその能力を得るにはどのような教育を行えばいいのでしょうか。

　今回ご紹介した本学の取り組みには、そのひとつの挑戦が描かれています。研究も教育も教科書的な方法論はない、試行錯誤した者だけが新しい価値を生み出すことができる。今回の特集に登場してくださった皆さまから、改めてそのことを教えていただきました。

熊本大学法学部准教授
Profile／1993年滋賀大学経済学部卒業。1998年大阪府立大学大学院経済学研究科博士後期課程満期退学。同年より熊本大学法学部助教授。2007年より現職。専門分野「地域経済学」

研究室探訪

Laboratory Exploration

内村圭一研究室

工学部

情報電気電子工学科
映像メディア研究室

大学院自然科学研究科

情報電気電子工学専攻
人間環境情報講座

高度道路交通システム（以下、ＩＴＳ）に必要なデジタル地図の自動作成や最適ルーティング探索について研究を進める内村圭一研究室。ＩＴＳとは、高速道路の自動料金収受システムやカーナビゲーションなどに活用されている技術です。交通渋滞や、燃費の向上、温室化ガスの排出など、自動車交通におけるさまざまな問題を解決するために、情報通信技術を活用しながら、日夜研究を重ねています。

また、産業用画像処理技術の開発にも取り組む同研究室は、デジタルカメラなどの画像認識性能やスピードを向上させる独自のプログラムを開発。顔認識機能を持つ防犯カメラや、工業用部品の欠損品などを見分ける画像検査システムの性能向上に貢献することが評価され、画像認識分野で国内最大の学会「MIRU（ミル）」において、2012年度の最優秀論文に選ばれました。「人間の目の役割をコンピュータが担い、正確かつスピーディーに画像認識ができるよう、さらに研究を重ねていきたい」と、上瀧剛助教は語ります。

内村研究室の18人のメンバーは、「最適化研究班」と「画像処理研究班」に分かれ、ITSの構築に向けて研究を重ねています。「最適化研究班」では、「車両で各地点に荷物を配送する際に、どの車両がどの地点を巡回すれば効率がよいか」などの研究を進める一方、「画像処理研究班」では、撮影画像から道路、標識、路面地物などを高度に抽出する画像認識・処理システムを研究。双方が協働することで、よりよい交通システムの実現を目指します。

内村教授は「一人一人がテーマに向き合い、“世の中に役に立つ研究を、楽しみながらやる”が、うちの研究室のモットー。例え思うような結果が出なくても、精一杯努力したという体験を将来の自分の糧にしてほしい」と語ります。

lab's data

［内村研究室データ］

□ 研究テーマ
ITS・バイオメトリクス（個人認証）

最適化技術および画像処理を用いて，ＩＴＳ・バイオメトリクス（個人認証）・非破壊検査・マシンビジョンなどが抱える課題を解決するために研究に取り組んでいます。

画像を元に個人認証を行うシステムに画像処理技術が用いられる。表情や姿勢などで、認証率の低下が起きないように、新たな手法による認証法を提案している。

□ メンバー
内村圭一教授、上瀧剛助教、
大学院生12人、学部４年生６人、研究員１人

□ OB・OGの進路
富士通株式会社、株式会社日立製作所、
三菱電機株式会社、凸版印刷株式会社、
富士通九州ネットワークテクノロジーズ株式会社、
株式会社再春館製薬所、熊本市役所、崇城大学 ほか

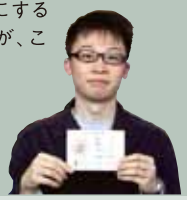
Interview:

ダイレクトな手応えに感動！10年後は、自分に誇れる研究者に

大学院自然科学研究科情報電気電子工学専攻
博士前期課程2年　平野 和弘さん

学部の時の実験で初めて画像処理を行い、画像に与えた効果が想定通りの結果が得られたことに感動し、この研究に引き込まれました。人間の視覚与える刺激に対する反応をダイレクトに得ることができた、その喜びが今を支えています。

また、上瀧先生は高校の先輩です。10歳年上の先輩の姿に、10年後の自分の姿を重ねて見ています。尊敬する先輩に支えてもらい、研究を進めることができるのは幸せなことですね。交通違反取り締まりで誤認事例なども起きていますので、カーナビゲーションシステムのデジタル地図をさらに精巧にすることで、そうした事故を防ぐことが、これからの大きな目標です。



平野さんが手にしているのはオープンキャンパスや「夢科学探検2012」で人気を集めた「くまぽんを描こう」。くまぽんの目・鼻を描いてもらい画像処理による採点を行った。

10:00

それぞれのペースで研究室を訪れる。パソコンに向き合い、意見を交換しながら研究スタート。

密着！内村研究室

留学生も交え、最適化研究班と画像処理研究班それぞれに協力しながら研究を進める内村研究室におじゃましました。

画像処理と最適化技術を駆使し、交通課題を解決！

16:00

「3次元ロボットピッキングシステム」の搬入。画像認識技術で工業用部品を認識し、ロボットアームで部品をつまみ上げる実験装置。

13:00

修士論文発表を前にリハーサル。先生たちのアドバイスを元にさらにブラッシュアップを図る。

デジタルデータの地図から道路情報を解析し、精巧な情報を読み取る。効率的な交通アクセスのシステム構築に生かされている。

特集Ⅱ “熊大の魅力”を伝える

熊大歌留多（かるた）読み札

最優秀賞

漱石も
八雲も君も
誇りなり

［職・すぐ掃除］

夏目漱石像（左）
小泉八雲のレリーフ
旧制第五高等学校時代に教鞭を取った文豪たち

優秀賞

赤門を
くぐりて今日も
志（こころざし）を極む

［学（教）・まきお］

偉人の小径（こみち）
サインカーブに
紅葉（もみじ）降る

［職・松山 勇二］

軽いぞ　強いぞ
熊大マグネシウム

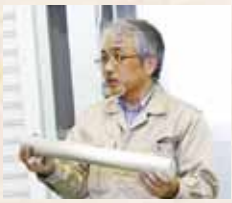
［学（工）・ぼくの夏休みフォー！］

草萌ゆる
武夫原（ぶげんと）頭に
集う友

［職・文武不岐］

生命の
未来を紡ぐ
発生研

［職・エスポン］



KUMADAI マグネシウム
熊大発、実用金属の中で最も軽く、世界最強度のマグネシウム合金

熊本大学の魅力を再発見し、学外へ向けアピールしようとスタートした「熊大歌留多読み札」コンクール。附属小学校の児童から教職員まで全学が参加し、約3，000通にもおよぶ作品が集まりました。今後、読み札を活用した興味を引く取り組みが期待されています。

熊大の魅力を今一度掘り起こし、広く発信していこうという目的で始まった熊大歌留多読み札コンクール。世代を越え、誰でも気軽に参加できて自由に考えることができる〝カルタの読み札〟という形式を取り入れることで、広く情報を発信していこうとするものです。

応募された作品は、総数2，958通。紫熊（しくま）祭・本九祭・蕃滋（ばんじ）祭の三つの学園祭で学生を巻き込んだPR活動を行ったことで、これだけ多くの読み札が集まりました。

作品の中には、五高記念館、赤門、蕃滋園などの歴史・伝統はもちろん、熊大マグネシウムやパルスパワーなどの世界最先端の研究、食堂やアゴラ（文・法学部棟・教育学部棟前広場）などのキャンパス風景、そして附属学校園の行事などが詠まれています。応募した一人一人の立場により視点が違い、オール熊大ならではの〝気づき〟の数々が込められていました。

多くの作品の応募があった同附属小学校・河野順子校長は、「子どもたちが、大学と自分の絆を再認識する機会になりました。〝あこがれの熊本大学〟が数多く歌われていたことも印象的でしたね」と語ります。

熊大歌留多読み札審査委員会委員長を務めた谷口学長が、「学内の歴史や文化、豊かな自然、そして〝人〟など、本学の誇りが一つ一つの歌に盛り込まれています。学外の皆さんにもぜひ、ご覧いただきたいですね」と語るコンクール入賞作品の数々をご紹介しましょう。

谷口学長から表彰状を授与される熊本大学教育学部附属小学校3年（当時）・吉岡里彩さん。

入賞

海を越え
中国とつなぐ
上海オフィス
［学(文)・かぼす小町］

おばちゃんの
優しさが沁みるぜ
北食堂
［学(文)・ながこう］

北里の
魂うけて
医を学ぶ
［学(医)・叶仁］

様々な
個性がキラリ
熊大附属特別支援
［特高1・澤野 弘明］

心身を
鍛練します
阿蘇遠歩
［職・前田 玲］

立田山
杜が見下ろす
黒髪キャンパス
［職・中冨 宏］

父が通った赤レンガ
いつか私も
熊大生
［小3・吉岡 里彩］

赤門
五高時代の正門は、国指定重要文化財の一つで、熊大のシンボル的存在

つないでく
ユア・フレンドで
子どもの未来
［学(教)・西村 唯］

寅の刻
附小伝統
うさぎ狩り
［小3・白谷 優希］

難病に
光明見出す
エイズ研
［学(医)・詠み人知らず］

入神致用
現代を究め、
未来を翔る熊大
［学(工)・しも］

練り歩く
五高健児が
赤ふんで
［職・中冨 宏］

春の日に
アゴラでしばしの
日光浴
［学(文)・ながこう］

100年の
学び刻みし
五高記念館
［学(薬)・ちーず］

五高記念館
漱石や八雲ゆかりの史資料を展示。企画展なども行っている。国指定重要文化財

楓の木の
ゆれる葉音と
大合唱
［中1・田中 眞結］

平成の
息吹はじける
紫熊祭
［職・松山 勇一］

まちなか工房
まちそば大学
［学(自)・ebi］

まちなか工房
地域住民も交え、実践的なまちづくりの技術を学習し研究する場

未来を担う若人の
背中を後押し
学長講義
［職・前田 玲］

薬用植物園
肥後細川藩の薬園「蕃滋園」の流れを汲む薬草園

薬草園
こころも体も
リフレッシュ
［学(薬)・宮崎 詩季］

世の為に
韋編絶つまで
没頭す
［学(医)・叶仁］

ラブ熊大
卒業しても
我が誇り
［職・夏碧］

るんるんるん
こばとの園児
げんきよく
［職・しょうさん］

煉瓦色
赤く燃ゆるは
学徒の心
［学(文)・かぼす小町］

浪漫と誇り
湛えて動く
機械遺産
［職・I.Imamura］

工学部研究資料館
旧熊本高等工業学校の機械実験工場として建造。毎月一回、一般公開あり。国指定重要文化財

ワクワクで
育む意欲
高大連携
［職・I.Imamura］

審査委員会特別賞

あら素敵、きっとあの子は熊大生
［学(文)・緒方 裕子］

一瞬で 世界を変えるパルスパワー
［学(自)・キタキツネ］

今もなお 剛毅木訥 受けつがる
［学(医)・叶仁］

ウォーキング 五高の杜を さるきましょ
［職・中冨 宏］

受け継ごう 江戸から繋ぐ 蕃滋園
［学(薬)・Tomo］

うたがだいすき ふぞくしょう
［小1・酒井 理帆］

大銀杏 今年も作る 黄金の絨毯
［職・松山 勇一］

楷の木は 孔子の精神 熊大に伝える
［職・I.Imamura］

(五高)記念館に花を生けたよ。
葉っぱが ふわりとゆれたよ
［特中2・浦上 佳乃］

後世に「浪漫」を伝ふ漱石像
［学(文)・ながこう］

新緑の あおくまぶしき 実習生
［中2・Discipline］

永く続く 永青文庫は 未来まで
［職・田川 登紀子］

響き合え！ 熊大四附の 生徒たち！
［中2・大下 哲］

百年の 柴の大地に 医学研
［学(医)・白根草］

武夫原の 大地に根づく 若き夢
［学(医)・叶仁］

論文が 世界をつなぐ 熊大リポジトリ
［職・しょこ］

輪になってくすのき囲もうようちえん
［小5・尾池 紗代子］

※入賞者名は、［肩書き(学部)氏名もしくはペンネーム］の順に掲載。「学」…学部生および大学院生、「職」…教職員、「小」…附属小学校、「中」…附属中学校、「特高」…附属特別支援学校高等部、「特中」…附属特別支援学校中学部を表します。

世界に通用する対話力を身に付け、発展途上国のインフラ整備に貢献したい。

大学院自然科学研究科 情報電気電子工学専攻 博士前期課程2年
末田亮介さん

2012年9月から12月まで、フランスのボルドー国立電子情報高等学院で学んだ末田さん。夢だった留学経験を生かして将来は発展途上国でグローバルに活躍したいと語ります。

高校生の頃から海外に関心があり、世界中を訪れる中で発展途上国のインフラ整備が日本に比べ劣っていることに衝撃を受けました。それが現在の原子力・火力や再生可能エネルギー研究に関心を持ったきっかけです。学生のうちに旅行ではなく専門分野の知識習得のために留学をしたいという夢を叶えるために、日本学生支援機構と大学からの奨学金を受け、留学をしました。将来のことを考えたときに今後英語圏以外の発展途上国で仕事をする可能性が高いと考えたのがフランスを留学先に選んだ理由です。

フランスでは、太陽光発電システムを作る過程で使用する直流電圧を変換・制御する回路「DC-DCコンバータ」のシュミレーションと製作に挑戦。製作する上で必要な知識を学んだのち、設計を行い、実際に製作するという一連の流れを4カ月間で経験しました。短期間の間に言葉も設備も違う環境の中で、課題に取り組まなければならないプレッシャーは大きかったのですが、そういった環境の中で自分を追い込み、課題を達成できたことは日本に帰ってきた今も自信に繋がっていますね。

初めての研究にも挑戦でき、技術的にも成果のある毎日でしたが、それ以上に世界各国から来ている学生たちの学びの姿勢に日々刺激を受けました。どの学生も積極性があり、ディスカッションの際の発言力や堂々とした態度に圧倒され驚かされるばかり。将来、グローバルに活躍していくためには語学力も含め、説明能力や積極性、対話力を身に付けなければならないと実感し、新たな課題の発見にも繋がりました。

現在、東日本大震災をきっかけにエネルギーへの関心が高まっています。将来、再生可能エネルギーの利用が世界中で増えるように今後さらに研究に力を入れていきたいですね。

ボルドーで日本語を勉強している学生たちと交流を楽しんだ末田さん（最後列左から3人目）。帰国後も連絡を取り合い、互いに日本語とフランス語を学んでいる

同学院IMS研究所のエネルギー変換グループを率いるステファン・アゾパルディ教授と。ヨーロッパやアジアの学生も多く、共に学び合った。

International exchange Report
国際交流レポート
平成24年12月
～平成25年2月

12／5 マンスフィールド財団タスクフォース：進化と繁栄を共有するための現代日米ビジョンの構築―日米ビジョンの発表・公開セミナー in 熊本を開催。

トーマス・シーファー前米国駐日大使ら9人の日本専門家からなるタスクフォースが、今後の日米二国間関係についての構想を発表しました。九州各県の有識者、一般市民及び大学教職員、学生など、約200名の参加がありました。

8 留学生シンポジウムに参加

熊本留学生交流推進会議の主催で、留学生と熊本県民の交流を目的として開催され、留学生等約100名が参加しました。第1部では「留学生に聞いてみよう！～世界のゆく年くる年～」と題し、各国の留学生が自国での年末年始の過ごし方について発表を行いました。第2部では日本の伝統行事として餅つきを体験しました。

12 熊本大学留学生交流パーティーを開催

本学で勉学・研究に励んでいる留学生、その指導教員、チューター及び学外関係者等相互の交流と親睦を深める目的で開催しました。約350人が参加しました。

15 外国人留学生のための就職合同説明に本学留学生が参加

熊本県、高等教育コンソーシアム熊本、熊本留学生交流推進会議等が主催する就職合同説明会に、本学からも留学生が参加し、留学

世界から熊本大学へ

母国の子どもたちにイングリッシュコミュニケーションの楽しさを伝えたい！

教育学部 英語教育専攻 教員研修生 クリナエワ・アンナさん

2011年に来熊し、英語教育について学ぶウズベキスタン出身のクリナエワ・アンナさん。将来は、高校教師として母国の子どもたちに英語の楽しさを教えたいと語ります。

教育学部棟を前に。母国に帰る日が近づいて、熊大でもっとたくさんのことを学びたいとさらに熱意が高まっている

大学卒業後、ウズベキスタンのセカンダリースクール（※）5～9年生のクラスで、英語教師をしていました。子どもたちのコミュニケーション力をアップさせるために、さらに勉強したいと思い、文部科学省の奨学金制度を利用して、教育学部が充実している熊本大学に留学しました。熊大では、主に英語コミュニケーション能力の向上のための、ペアやグループワークについて研究しています。

日本の英語教育は、文法や読み書きだけでなく、コミュニケーション力を磨くためのカリキュラムが充実しており、ウズベキスタンの英語教育に生かすことができる要素がたくさんあります。学校の授業だけでなく、小中高校の授業を見学に行ったり、高木信之教授（当時）が主宰する英語教育者のための英語授業学研究会「PIGATE（ピガティ）」に参加し、現役の先生たちと交流することで、効果的な授業の進め方を模索しています。

熊大のキャンパスは、緑が多く、カフェテリアやメディカルセンター、図書館など、さまざまな施設が充実していて、まるで小さなアカデミックタウンのようで大好きです。また町に出ると、イタリアンや韓国料理など、いろんな国の料理を手頃な価格で楽しめるのも魅力ですね。ウズベキスタンでは、世界各国の料理を食べたいと思っても、高額でなかなか食べることができないんですよ。

今は、研修報告会の準備に忙しい毎日です。日本とウズベキスタンの教員たちから集めたアンケートを比較分析し、さらに効果的なコミュニケーション教育についての研究を重ねています。熊大で学んだコミュニケーション教育を活用して、ウズベキスタンの子どもたちに英語を教える日が待ち遠しいですね。

熊本市立城南小学校5年生のクラスに参加。「ウズベキスタンにはチームティーチングがないので、日本の素晴らしいシステムを母国の教育に取り入れたい」
※セカンダリースクール…中等学校

27 韓国科学技術院（KAIST）金英千監査員が谷口学長を表敬訪問
山本監事、立石監事とも懇談し、大学の業務監査、会計監査について積極的な意見交換を行いました。

1／8 平成24年度「教育の国際化推進のためのFD研修」を実施（10日まで）
本学教員の英語による教授力・コミュニケーション力の向上を目的とし、4回目となる今回は、カナダ・アルバータ大学より講師を招聘して本研修を行い、教員9名が参加しました。

22 南榮技術學院（台湾）と本学教育学部の共催で学生交流会を開催
53名の教員・学生・留学生が参加しました。

2／19 留学生実地見学旅行を実施（20日まで）
本学留学生等が、日本の歴史、文化、風土及び日本が持つテクノロジーをはじめとした日本の現在の科学技術などを実際に体験することによって日本への理解を深めることを目的として、福岡県および佐賀県を訪問しました。約100名が参加しました。

22 日本語研修コース修了式、短期留学プログラム閉講式

22 教育学部が、南榮技術学院（台湾）等と共催で、異文化交流国際学術検討会を台湾で開催。

卒業生ジャーナル

Graduates' Journal

本学の卒業生たちの“今”に迫る
「卒業生ジャーナル」。
熊本県内はもとより、国内外で活躍する
先輩たちのこれまでの歩みや苦労、
そして喜び、楽しみなどを通して
精励するその姿をご紹介します。

薬 新薬の可能性を信じて グローバルに活躍

後藤 周志
Shuji GOTO

製薬会社(東京)　勤務

薬学部薬科学科・平成16年度卒／大学院薬学研究科博士前期課程生命薬科学専攻・平成18年度修了

昭和55年生まれ。宮崎県延岡市出身、延岡高校卒業。駿台予備校出身。

熊大のココがイイ!

周りに雄大な自然があり、年に一度の遠歩大会にてそれを十分堪能できるところ。

病気の苦しさを知っている小児科医になりたいと描いた夢

幼い頃に私自身が小児ぜんそくに苦しみ、病院や薬はとても身近な存在でした。叔父が小児科医をやっていて、その仕事ぶりがとてもカッコ良く見えて、自分も小児科医になりたいと漠然と自分の将来を描いていました。

試験に追われながらも部活やアルバイト、交換留学などを経験

薬学部はクォーター制で、定期試験が年に4回あり、忙しい日々でした。その状況下でも、サッカー部に所属し、仲間と練習・試合で一喜一憂し、また音楽活動をし、バイトにも励み、充実した大学生活でした。大学院時代には、交換研究員としてカナダに留学させていただき、グローバルな知見を得ることができました。

アメリカと力を合わせて新しい薬を共同開発

製薬会社の臨床開発部に所属しています。製剤の期待される有効性や安全性が、実際にヒトでも認められるかを臨床試験で検証することが臨床開発部の仕事です。入社後、日本で臨床開発の仕事を経験し、その後、3年ほどアメリカのグループ会社で、同じく臨床開発に携わりました。現在は、そのグループ会社と共同開発を行っております。

工 学生時代の専攻とは異なる世界へ 印刷と情報の分野で社会貢献を

内園 晴典
Harunori UCHIZONO

株式会社DNP西日本
(福岡)　勤務

工学部数理工学科・平成21年度卒／自然科学研究科数学専攻応用数理コース・平成23年度修了

昭和63年生まれ、鹿児島県阿久根市出身。私立川島学園れいめい高校卒業。

熊大のココがイイ!

頭上や足元を覆う桜の花や銀杏の葉に季節を感じることができます。

得意な数学を深く学び、「ものづくり」で社会貢献を

具体的な夢はありませんでしたが、得意科目だった数学を用いることで、社会の役に立ちたいと考えていました。そのため、「ものづくり」という分かりやすい形で社会貢献のできそうな工学部で、専門科目は数学という「数理工学科」に関心を持ち、この特殊な学科への入学を目標に、受験勉強に励んでいました。

多くの素晴らしい出会いから さまざまな機会や経験に恵まれた大学生活

学生会、サークル、アルバイトなどの活動を通して、多くの人とさまざまな経験を共にすることができました。また本分である勉強においても、自身の研究内容の学会での発表や雑誌への投稿など貴重な機会をいただきました。友人や先輩後輩、先生方をはじめ、さまざまな場で多くの素晴らしい出会いに恵まれた大学生活でした。

専門外の世界に関心を広げた就職活動 異なる分野の中でこそ自分の色を出したい

就職活動中も当初は専門を生かせる仕事をと考えていましたが、次第に専門外の世界に関する見識を広げたいと思い、印刷会社に就職しました。今は印刷と情報に関する技術の修得に励んでいます。学生時代の専門とは全く異なる分野ですが、その中で自分ならではの色が出せればと考えています。

文 社会復帰を支える法務教官として 少年少女の将来のために奮闘

東　美里
Misato HIGASHI

法務省矯正局
愛光女子学園(東京)
勤務

文学部コミュニケーション情報学科・平成23年度卒

平成元年生まれ、熊本県菊池郡菊陽町出身。熊本県立濟々黌高校で遊びすぎ、ほどなく浪人。1年間の予備校生活を経て、熊大文学部へ。

熊大のココがイイ!

人、モノ、環境はそろっている。あとは自分次第。

華やかなイメージに憧れて客室乗務員になることが夢

高校生の頃は客室乗務員になることが夢でした。しかし強い動機やモチベーションはなく、単に華やかな世界に憧れていただけでした。このころはまだ、自分の適性や能力はそっちのけで、「かっこやさ」や「イメージ」に依存したまま自分の進路を考えていました。

人間関係に悩んだ2年間 自分の悩みや意見を話すことで解決

1～2年生のころは、人間関係に悩み講義に出られないことが多かったです。それまで「学校に行けない」という経験をしたことがなかったためとてもショックでした。しかし3年に上がってからゼミに入ったことで、自分の悩みや意見を少しずつ周りに話せるようになり、授業にも参加できる日が増え、無事に卒業することができました。

幅広い業務に携わる毎日

1年目は他省庁の同期との行政研修をはじめ、刑務所、少年鑑別所での実務修習、そして自庁での勤務と目まぐるしい日々を過ごしてきました。現在は法務教官として女子少年院に勤務しています。日課中の保安はもちろんですが、教科教育からイベントの企画まで、幅広い業務に携わることができています。

教 10年以上の経験で新しい理論を今も現役で学ぶ中学校教諭

坂西 法和
Norikazu SAKANISHI

八代市立第四中学校
勤務

教育学部小学校教員養成課程副専攻技術・平成11年度卒

昭和52年生まれ、熊本県玉名郡（現玉名市）天水町出身、熊本県立玉名高校出身。中高大をソフトテニス部で活動、特に大学では体育会（自治）にも所属し社会性を学ぶ。宇土鶴城中、苓北中、大矢野中、八代四中に計12年勤務。

熊大のココがイイ！

教育現場とのつながりは、教師を目指す学生にとって魅力的な環境であると思います。

自分も学校が好き
生徒と関わる仕事がしたい

学校が好きで、授業や課外活動を通して生徒と関わることのできる教師の仕事に憧れていました。特に、自分自身が大きく変化し成長した時期だと感じていたので、そのころから中学校の教師を目指していました。

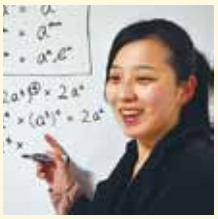
活動とアルバイトをしながら
教員を目指して先輩方と試験勉強

部活動に明け暮れていました。また、自治活動への意欲的な参加で、多くの学生と交流し刺激を受けました。塾講師と家庭教師のアルバイトを4年間やっていました。教員採用選考の勉強（特に2次対策）は、先輩方と一緒にさせてもらい多くのアドバイスを受けました。感謝しています。

現場での経験と大学院で学ぶ理論
実践に生かすことを目指して

熊本県公立中学校の教師を12年間勤め、現在は現職派遣制度を利用して大学院で学んでいます。現場での経験と大学院で学ぶ理論とを結びつけ、卒業後の実践に生かすことができるよう意識しています。中学校での仕事はやりがいのある充実したものです。一方でさまざまな課題を解決する能力も要求されます。日頃はなかなか研究する時間が持てないので、今回のチャンスを生かしてしっかり勉強しておきたいです。

理 何かを好きと言えることに自信と誇りを中高一貫校で数学の魅力を教える日々



島渕 由佳
Yuka SHIMAFUCHI

早稲田大学系属
早稲田佐賀中学校・高等学校
（佐賀）　勤務

理学部理学科数理科学プログラム・平成19年度卒/自然科学研究科博士前期課程理学専攻・平成21年度修了

昭和61年佐賀県有田町出身。佐賀県立武雄高校から熊本大学・大学院へ。趣味は折り紙、積み木、食べること（お米が大好物）。

熊大のココがイイ！

緑がたくさんで開放的なキャンパス！温かい人々！

中学時代の恩師の姿に憧れ
数学の魅力を伝える教師を夢見て

「いつも数学ができるなんて、ずるい！」。中学2年のとき、休み時間まで生徒の質問に答えている先生の姿を見て教師になると決意しました。中高と、先生から美しく「おおっ」と驚くような解法を示されるたびに、その面白さに引き込まれました。数学が「嫌い」「苦手」という人にも、私が感じたような数学の魅力を伝えたいと思っていました。

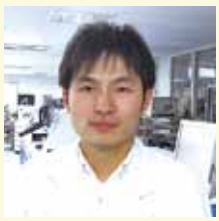
徹夜で勉強しながら
仲間と語り合った学部時代

学部時代は、友達と徹夜で勉強したり、遠歩に参加したり、充実した日々を過ごしました。4年次のゼミで「理解できたときの面白さ」に改めて気づき、大学院へ進学。高校の非常勤講師を経験し、学外では年齢や性別、職業にかかわらずさまざまな人々と話す機会に恵まれ、価値観や視野が広がりました。

生徒には夢中になれることを見つけて
何かを好きな自分に自信を持ってほしい

現在は、中高一貫校で数学を教えています。生徒たちは好奇心旺盛で、日々面白い質問をぶつけてくれます。数学の奥深さや美しさを感じとってもらうとともに、何かを好きと自信を持って言える姿を見てもらうことで、生徒たちがそれぞれ夢中になれるものを見つけ、誇りを持てるようになって欲しいと思っています。

医 日夜研究に励み、技師としての業務に生かす



重藤 翔平
Shohei SHIGETO

信州大学医学部附属病院
臨床検査技師（長野）
勤務

医学部学科保健学科検査技術科学専攻・平成20年度卒/大学院保健学教育部修士課程 検査技術科学分野生体情報解析学領域・平成22年度修了

昭和61年生まれ、熊本県熊本市出身。熊本県立済々黌高校から熊本大学、同大学院を経て山と雪の国信州へ。しかしながらウインタースポーツは未だ未経験。信州で蕎麦好きになる。

熊大のココがイイ！

住みよい町で落ち着いて勉強、研究に励める。

医療現場での勤務と
熊大進学が漠然とした目標に

高校生のころは漠然と医療の現場で働くことと、熊大に進学することが目標。医療系は専攻の選択イコール職種の選択ということになりますが、当時は臨床検査技師の仕事がどんなものかよくわかっていませんでしたね。

レポートや試験をクリアするのに必死
修士課程で検査技師の役割や可能性を考える

学部の3年次より実験や実習が増え、そのレポートや試験をクリアするのが大変でした。4年次には国家試験に向けた勉強もそこそこに、研究に取り組みました。修士での2年間は非常に充実しており、研究室の先生や先輩と研究の話をしていると時間を忘れるほどでした。指導教員の先生には検査技師の医療における役割や可能性の大きさなども教えていただきました。

技師としての知識をさらに磨くため
博士課程への進学を予定

現在は信州大学医学部附属病院の臨床検査部検体検査室に勤務しています。検体検査室では血液や尿を用いてさまざまな検査を行っています。自己研さんの活発な業界ですので、平日休日を問わず、勉強会や研修会などに参加しています。また学位取得のため来年度より博士課程の進学も予定しており、技師としての業務に加え研究活動も行っています。

法 高校時代からの目標に向かって公務員から弁護士へ

中嶽 修平
Shuhei NAKATAKE

最高裁判所　司法研修所
第66期司法修習生
（熊本地方裁判所配属）

法学部公共政策学科・平成15年度卒/大阪大学大学院高等司法研究科（ロースクール）・平成22年度修了

昭和56年9月生まれ。熊本県球磨郡水上村出身。熊本県立人吉高校から熊本大学法学部へ。66期司法修習生。志望は弁護士で、将来は司法過疎地での開業を目指す。趣味はボウリングなど。

熊大のココがイイ！

五高記念館など伝統的な建物もあり、落ち着いた環境で勉強ができる。

受験勉強に苦労しながら
将来に向けて法学部を目指す

高校1年生のときは、生物学に興味があり、理学部か医学部を志望。父が公務員であったことや、地元に弁護士が一人もいなかったことから、公務員や弁護士になりたい気持ちもあり、悩みました。その結果、高校2年生のとき、法学部を目指すことにしました。ただ、高校は理数系コースだったので、勉強するのに苦労しました。

アルバイトやサークル活動に参加
公務員を目指して勉強漬けの学生時代

学部1～2年生のときは授業、アルバイトやサークル活動に積極的に参加し、友人が一気に増えとても充実した日々でした。学部3年生のときは、公務員試験を目指し、勉強中心。当時は公務員人気が非常に高く、試験に合格するのも難しかったため、予備校に通いつつ必死に勉強しました。学部4年生の9月に人吉市役所に合格することができ、その後卒論に集中して取り組みました。

市役所勤務を経てロースクールへ
司法試験に合格し、司法修習真っ最中

平成16年4月に人吉市役所に入庁、総務部税務課に配属され、個人住民税の賦課事務などに従事しましたが、平成20年3月に退職。同年4月に大阪大学大学院高等司法研究科に入学し、平成23年3月に卒業しました。その後、平成24年9月に2回目の挑戦で司法試験に合格。現在は弁護士を目指し司法修習中であり、裁判所、検察庁、弁護士事務所で研修を受けています。

REPORT 熊本大学先進マグネシウム国際研究センター長・河村能人教授が「第10回 本多フロンティア賞」を受賞

熊本大学先進マグネシウム国際研究センターにおける、河村能人教授のマグネシウム研究が「第10回 本多フロンティア賞」を受賞しました。

同賞は、公益財団法人本多記念会が材料科学分野で学術面あるいは技術面において画期的な発見または発明を行った研究者に贈る賞で、画期的な力学特性と耐食性のある*KUMADAI*不燃マグネシウム合金を開発したことが高く評価を受けたものです。

贈呈式は5月31日(金)に学士会館(東京都千代田区)で行われます。

*KUMADAI*不燃マグネシウム合金の開発により、河村教授は文部科学省が発表する「科学技術への顕著な貢献2012(ナイスステップな研究者)」も受賞。温室効果ガスの低減に寄与することが高く評価された。

REPORT 「第2回熊本城マラソン」でランナーの“命”をサポート

2月17日(日)に行われた「第2回熊本城マラソン」で、熊本大学医学部附属病院循環器内科の小島 淳医師(心不全先端医療寄付講座特任准教授)をはじめとするドクターやナースたちが、県内の各病院から集まったボランティアチームとともに、体調不良などを訴えるランナーたちの救護活動を行いました。

熊大ではコース沿いの2カ所に救護所を設置。今回は4人を救急車で搬送するなどの対応が発生しましたが、マラソン時に危惧される心肺停止などの重篤な事態はなく、無事に大会の幕が下りました。

REPORT 国立六大学で包括連携協定を締結しました

3月6日(水)、千葉大学・新潟大学・金沢大学・岡山大学・長崎大学・熊本大学の国立六大学は、包括連携協定を締結しました。

国立六大学が緊密かつ強固に連携し合うことで、世界的水準の独創的な研究拠点の創出、グローバル社会でリーダーとなる人材の育成、地域社会への貢献、国際的活動の推進を図ります。

REPORT 「第2回熊本城マラソン」で本学学生が準優勝

2月17日(日)に開催された第2回熊本城マラソン・歴史めぐりフルマラソンで理学部3年(当時)・平野隆之さんが2位に入賞しました。

平野さんは「年末にケガで走れない期間もあったが、自分の走りに集中し、順位を上げていきたい」と今大会2度目の挑戦。2時間21分00秒(速報値)でベストタイムを更新し、去年を上回る好成績を残しました。

「昨年は、後ろから順位を上げていく感じだったけれど、今年は先頭で順位争いができた。来年の出場権も手に入れたので、がんばります」と平野さんは語ります。

表彰式で入賞者と並ぶ平野さん(左から2人目)。優勝した球磨村役場職員・地下 翔太さん(左端)とは九州一周駅伝で共に走る同志。

政令指定都市誕生を記念した大会に、県内外から約1万人が参加。

REPORT 平成24年度の感謝状贈呈・学生表彰を行いました

平成24年度の課外活動指導者に対する感謝状贈呈、および学生表彰を行いました。平成14年度から続くこの表彰制度では、学術研究や課外活動において優秀な成績を修めた、または顕著な活動が認められた学生や学生団体を表彰しています。また、課外活動指導者に対する感謝状の贈呈も合わせて行っています。平成24年度は課外活動指導者1名に感謝状を、個人17名・4団体に表彰状を授与しました。

学生表彰者（学業成績優秀者除く）

【団体】

団体名	大会等名	種目等名	成績
ダイビング部	第45回関東学生潜水連盟フリッパー競技大会 高等教育コンソーシアム熊本主催 You Know Best 熊本! 2012学生映像コンテスト	団体 団体	優勝 最優秀 作品賞
舞踏研究部	第48回全九州春季学生競技ダンス大会	団体	優勝
ボート部	2012年 夏季・秋季九州学生レガッタ大会	団体	優勝
ボランティアグループ「ぱれっと」	平成24年度 学生企画支援事業「きらめきユースプロジェクト」 事業名：入院している子どもへの学習および遊びのボランティア		最優秀賞

【個人】

氏名	所属（平成24年度）		大会等名	種目等名	成績
原 朱音	文学部	2年次	第36回女子東西学生弓道選抜対抗試合	西軍	優勝
堤 里帆	教育学部	3年次	第45回関東学生潜水連盟フリッパー競技大会	女子 50m	2位
宝満 正郁	法学部	2年次	第45回関東学生潜水連盟フリッパー競技大会	潜水男子 200m	2位
岩崎 真和	理学部	2年次	第19回全日本スポーツダイビング室内選手権大会 第45回関東学生潜水連盟フリッパー競技大会	400m フリッパー男子 男子 400m	優勝 優勝
寺島 康太郎	法学部	1年次	第45回関東学生潜水連盟フリッパー競技大会	新人男子 200m	優勝
福山 徳明	法学部	1年次	第45回関東学生潜水連盟フリッパー競技大会	新人男子 200m	3位
田中 龍二	教育学部	1年次	第19回全日本スポーツダイビング室内選手権大会 第45回関東学生潜水連盟フリッパー競技大会	50m フリッパー男子 男子 50m	2位 2位
土師 正稔	工学部	4年次	第6回全日本テコンドー選手権大会 西日本地区大会 第10回全九州学生テコンドー選手権大会	男子 −68kg級 男子 −68kg級	2位 優勝
工藤 雅生	教育学部	2年次	第10回全九州学生テコンドー選手権大会	男子 −58kg級	優勝
北村 優	理学部	2年次	第43回全九州学生大会	女子茶帯単独演武の部	優勝
山川 広大	工学部	4年次	第38回北部九州学生競技ダンス大会	ワルツ・タンゴ・フォックス・クイック	優勝
中村 しおり	理学部	4年次	第48回全九州秋季学生競技ダンス大会	ワルツ・タンゴ	優勝
今村 祥太朗	法学部	4年次	第48回全九州春季学生競技ダンス大会	パソ	優勝
須藤 優雅	教育学部	4年次	第48回全九州秋季学生競技ダンス大会	パソ	優勝
崎間 和希	理学部	4年次	第48回全九州春季学生競技ダンス大会	ルンバ	優勝
末永 恭子	法学部	4年次	第48回全九州秋季学生競技ダンス大会	ルンバ	優勝
原口 司	教育学部	4年次	九州大学ボクシング選手権大会	フライ級	優勝
田原 将伍	法学部	2年次	九州大学ボクシング新人選手権大会	バンタム級	優勝
中尾 有沙	教育学研究科	2年次	天皇賜盃第81回日本学生陸上競技対校選手権大会 第82回九州学生陸上競技対抗選手権大会 第40回九州学生陸上競技選手権大会	女子 三段跳 女子 三段跳 女子 三段跳	3位 優勝 優勝
堤 詩織	教育学研究科	2年次	第40回九州学生陸上競技選手権大会	女子 400m	優勝
木實 祥一朗	教育学部	4年次	第62回九州地区大学体育大会	男子 棒高跳	優勝
犬塚 世文	教育学部	3年次	第62回九州地区大学体育大会	男子 やり投	優勝
森岡 晃史	工学部	3年次	第85回北海道陸上競技選手権大会	男子 800m	優勝
平野 隆之	理学部	3年次	第40回九州学生陸上競技選手権大会 第40回九州学生陸上競技選手権大会	男子 5000m 男子 10000m	優勝 優勝
髙瀬 怜奈	教育学部	2年次	第62回九州地区大学体育大会 第62回九州地区大学体育大会 第67回九州陸上競技選手権大会 第82回九州学生陸上競技対抗選手権大会	女子 100mH 女子 走幅跳 女子 七種競技 女子 七種競技	優勝 優勝 優勝 優勝
工藤 明日香	教育学研究科	1年次	第36回九州青年美術公募展	平面絵画	文部科学大臣賞
盛田 安紗未	教育学部	4年次	第14回九州音楽コンクール	ピアノ部門 大学生クラス	金賞・最優秀賞

課外活動指導者に対する感謝状贈呈者

指導者名	指導期間	指導団体名
中川 一弘	28年	ボクシング部

REPORT 「減災型地域社会のリーダー養成プログラム」キックオフ・シンポジウムを開催

3月5日(火)、今年度採択された文部科学省大学間連携共同教育推進事業「減災型地域社会のリーダー養成プログラム」のキックオフ・シンポジウムが熊本市で開催され、大学や県、熊本市などの関係者約100人が参加しました。

同シンポジウムは、谷口功熊本大学長、蒲島郁夫熊本県知事、幸山政史熊本市長の挨拶に始まり、特別講演として文部科学省高等教育局大学振興課長の池田貴城氏を迎え、大学間連携共同教育推進事業の趣旨及び目的、採択された取組に対する期待などについて講話がありました。

続いて、同大減災型社会システム実践研究教育センターの山田文彦教授が「減災型地域社会のリーダー養成プログラム」事業について説明し、災害時に継続して対応できる人材育成の重要性を述べ、その後、熊本県立大学理事長の五百旗頭(いおきべ)真氏による「大震災の教訓」と題した基調講演がありました。

また、後半では岡田憲夫熊本大減災型社会システム実践研究教育センター長をコーディネーターに、谷口熊本大学長、古賀実熊本県立大学長、岡本惠也熊本学園大学長、小野友道熊本保健科学大学長によるパネルディスカッションが行われ、減災型地域社会に向けた課題と同事業へ期待することなどについて活発な意見交換が行われました。

(上)事業の説明を行う山田教授(左)パネルディスカッションの様子

REPORT 文部科学省 東日本大震災復興支援イベントに協賛しました

3月11日(月)、文部科学省にて開催された「文部科学省　東日本大震災復興支援イベント～教育・研究機関としてできること、そしてこれから～」に協賛しました。

沿岸域環境科学教育研究センターの秋元和實准教授、工学部技術部職員らが、世界最先端の性能を有する音響解析装置およびロボットを用いた宮城県気仙沼湾の地形・底質調査事業について、来場者に説明しました。盛況のため終了を待たずに資料が無くなり、とくにロボットや映像は注目の的でした。調査結果は瓦礫撤去や養殖施設再建などに活かされ、本事業は地域経済の復興に寄与しています。

(左)来場者に説明する秋元和實沿岸域環境科学教育研究センター准教授ら(上)イベントに参加した熊本大学のスタッフ

INFO 「第5回禁煙シンポジウム」「第12回薬用植物を知ろうin熊本・in阿蘇」を開催します

【第5回禁煙シンポジウム】

「第5回禁煙シンポジウム」を開催します。大学教授や小児科医など、多数の講師をお招きして、禁煙に対する知見を深めます。講演後には討論会・親睦会を予定しています。

講演・観察会
日　時／4月27日(土)
　　シンポジウム
　　15:00～18:30
　　討論会・親睦会
　　18:30～22:00
場　所／熊本大学薬学部宮本記念館
参加費／シンポジウム 無料、
　　討論会・親睦会 2,000円

【第12回薬用植物を知ろうin 熊本・in 阿蘇】

5月18日(土)に薬用植物園での観察会や講演、19日(日)に阿蘇市内での野外観察会を行い、薬用薬物について学びます。講演後には、討論会・親睦会を予定しています。

講演・観察会(in熊本)
日　時／5月18日(土)9:00～16:00
場　所／熊本大学薬学部
　　総合研究棟2F 多目的ホール
参加費／500円
講演・観察会(in阿蘇)
日　時／5月19日(日)8:30～15:30
場　所／阿蘇市 ホテル「阿蘇いこいの村」
　　玄関前
参加費／1,000円

【事前申込】

1)名前 2)住所(郵便番号含む) 3)電話番号 4)メールアドレス 5)参加日を記載の上、メールまた往復ハガキでお申し込みください。往復ハガキの場合は5月13日(月)必着、メールの場合は5月16日(木)まで。定員になり次第締め切ります。

※薬剤師の方には漢方薬・生薬認定薬剤師研修シールを準備しています。

【問い合わせ】

薬用資源エコフロンティアセンター
Tel.096-371-4381
E-mail:yaharas1@gpo.kumamoto-u.ac.jp

Kumamoto University

熊本大学基金へのご協力に感謝し、心より御礼申し上げます。

No.20（平成24年12月1日～平成25年2月28日）

卒業生の皆さま、在学生の保護者の皆さま、法人・団体等の皆さま、本学の退職者及び教職員の皆さまからご寄附をいただき、平成25年2月28日現在、その寄附総額は約5億2687万円となっております。皆さまのご協力に厚く御礼申し上げます。

今号では、平成24年12月1日から平成25年2月28日までの間に入金を確認させていただきました個人41名、2法人・団体等の寄附者すべての皆さまへ感謝の意を込め、ご芳名を掲載させていただきます。公開を希望されない寄附者につきましては、掲載しておりません。

また、万一お名前がもれている場合は、誠に恐縮ではございますが、基金事務室（電話：096-342-2029）までご連絡ください。

皆さまの更なるご支援とご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

1. お名前・寄附金額の掲載を希望された寄附者

（寄附金額別、五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。）　※（　）内の数字は、累計寄附金額（万円）です。

【200万円】　東レ株式会社（1000）
【25万円】　谷口 功（180）
【10万円】　菊池 健（80）
【5万円未満】　井関 正博　神澤 綾人　濱﨑 欣明（20）

2. お名前のみ掲載を希望された寄附者

（五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。）　※［　］内の数字は、累計寄附回数（回目）です。

荒木 忍[5]　有冨 哲碩　出田 秀尚[4]　宇佐美 しおり[11]　加藤 賢二[2]　神澤 直美[4]
堺 正典　常葉 謙二[4]　冨岡 邦安[2]　西浦 智博　馬場 秀夫[5]　船津 昭信[2]
正木 秀信[3]　蓑田 眞幸[5]　宮本 康昭　村山 伸樹[6]　山尾 敏孝[2]　山本 廣基[2]
社団法人熊本大学医師会

3. お名前・寄附金額の掲載を希望されない寄附者

個人18名

REPORT 東レ株式会社から総額1,000万円のご寄附をいただきました。

このたび、東レ株式会社（日覺昭廣代表取締役社長）から熊本大学の発展のために活用してほしいと、平成24年12月28日（金）のご寄附をもって総額1,000万円に達しました。

東レ株式会社は、大正15年の設立以降、先端材料で世界のトップ企業を目指すとの高い志の下、基礎素材産業として新技術・新製品の開発をされており、現在は、地球規模の課題である環境問題や資源・エネルギー問題の解決に貢献するグリーンイノベーション事業など、「環境・水・エネルギー」、「情報・通信・エレクトロニクス」、「自動車・航空機」、「ライフサイエンス」を重点4領域とした事業を展開し社会に貢献されておられます。

また、東レ株式会社では、名誉会長の前田勝之助様をはじめ、多くの本学卒業生がご活躍されておられます。

なお、これまでのご寄附に対し、2月6日（水）に谷口学長から日覺代表取締役社長様に対し感謝状と副賞の扁額が贈られました。

谷口学長（右）から感謝状を受け取られる日覺代表取締役社長（左）（東レ株式会社本社にて）

INFO 「第5回熊本大学東京連合同窓会」を開催します

東京近隣地区在住の熊本大学同窓生の皆様は、奮ってご参加ください。

日　　時／5月25日（土）15:00～19:00
場　　所／日本青年館（東京都新宿区霞ヶ丘町7番1号
　　電話 03-3401-0101㈹）
対　　象／熊本大学同窓生
参 加 費／7,000円（交流会）

【申込み・問い合わせ先】
熊本大学マーケティング推進部
基金・同窓会担当
Tel.096-342-3129
Fax.096-342-3149
E-mail：
kik-doso@jimu.kumamoto-u.ac.jp

昨年度開催の様子

Kumamoto University
国立大学法人
熊本大学

〒860-8555 熊本県熊本市中央区黒髪2-39-1 TEL.096-344-2111(代)
http://www.kumamoto-u.ac.jp/
■黒髪キャンパス ■本荘・九品寺キャンパス ■大江キャンパス
[オフィス]東京オフィス・関西オフィス・関西リエゾンオフィス・上海オフィス・韓国KAISTオフィス・
国際産学連携サテライトオフィス(駐山東大学)・インドネシアITSオフィス・大連オフィス